

異文化コミュニケーションカンファレンス

～新病院開設特集 連続企画 “アートと医療” を考える



「究極のホスピタリティとは？」

■7月17日(木)18:00-20:00

■平井 祐範氏

大阪市立大学大学運営本部
研究支援課長

■合同カンファレンスルーム

■主催：
異文化コミュニケーションC f 実行
委員会

「机にかじりつくのではなく、病棟に足を運び、患者さんや医療者が、どこで何に困っているのかを発見することが私の仕事」。「転倒むしR」は、患者の離床をナースステーションに知らせてくれる装置を考案・作成。

(当時は大阪市立大学医学部附属病院・運営本部庶務課在

【ご紹介】

- 消化器外科ナーシング 2010年15巻1号 (Xf 社出版) 庶務課の私が考案！患者さんの転倒・転落を防止 離床検知装置「転倒むしR」
- 「子どもの療養環境を考えるー広報担当の立場から」第6回子どもの療養環境研究発表会



大阪市立大学医学部附属病院内の
ホスピタルアート

